

入 試 制 度

入試制度の基本問題について、各大学等における調査研究の状況を述べることにする。

(1) 客観検査と記述試験

現在実施されている共通1次試験は、いわゆる客観テストとしてマーク・シート解答の方式をとっており、一方大学ごとの第2次試験では文章や数式を書いて解答させる記述試験を行って、相互に補いながら受験生の能力を評価することとしているが、この二つの試験のもつ特徴や出題に当たっての問題点の調査研究が、京都教育大学とその附属高校の協力で行われている。

(2) 共通1次試験の基本的分析

共通1次試験は、高校における生徒の履修について、その一般的・基礎的な学習の達成度を共通のテストによって評価することを目的としているが、現在行われている共通1次試験でみている学力が、全体的にも分科的にもどのような構造になっているのか、その学力の評価において果たす役割がどのようになっているのか、理科と社会の選択科目の間における出題と得点の基本的な関連はどうなっているのか等について得点分布の曲線の形を理論的に分析するなどの方法により研究が行われている（筑波大学、大学入試センター等）。

また共通1次試験では、受験生が自分の得点

を自己採点する方式としているが、その精度についての調査研究が、京都教育大学、愛知教育大学などで進められている。

(3) 第2次試験と学力以外の要因

第2次試験では、各大学・学部に対する適性や能力をみるわけであるが、もっと基本的には、受験生の幅広い可能性を発見することが必要であろう。さらに、57年度から実施された高等学校の新学習指導要領のねらいとなっている「ゆとりと充実」、「特色あるカリキュラム」、「知育・徳育・体育の調和」から生まれてくる「特色ある人材」の能力の発見のためには、第2次試験において、学力以外の要因についても考慮しなければならないであろう。その検討資料として、高校調査書における行動及び性格の記録に記載されている各項目と、第2次試験の小論文の成績との関連の調査が、大阪外国語大学などで行われている。

(4) 大学・学部の特徴と入試

大学ごとの第2次試験は、それぞれの大学・学部がその目的・特徴に応じて人材を求めようとするものなので、それぞれの特徴を広く受験生に知ってもらおうと共に現在行っている試験がこの目的によく適合しているかの追跡調査が必要である。この調査研究の例としては、理工系

大学に対する選抜試験のあり方の研究（東京工業大学）、初等教育教員としてふさわしい人材の選抜のための推薦入学・面接の実施と検討（兵庫教育大学）などがある。

(5) 外国の資格試験・共通テスト

ヨーロッパの各国では、以前から、「後期中等教育修了認定兼大学入学資格検定試験」をそれぞれ実施し、この資格試験の合格者については、その国のどの大学にでも入学を認めるという方式をとっているが、例えば西ドイツの「アビツァア」、フランスの「バカロレア」、イギリスの「G.C.E.」（General Certificate of Education）について、それぞれの資格試験の内容・方法・評価等や、西ドイツにおいて資格試験の合格者の数が、大学の入学定員を上回ったために起こっている問題とその解決方法等についての調査研究、またアメリカ合衆国の「SAT」「ACT」等の統一テストについての調査・研究が大学入試センターなどで行われている。

さらに、スイスのジュネーブに本部をもつ「国際バカロレア」は、単に、大学入学資格の国際的統一を図ることだけを目的とせず、後期中等教育のカリキュラムの国際化を基礎とする大学教育の国際的交流の促進を目指しているが、この「国際バカロレア」について筑波大学で「国際バカロレア主要理科国際会議」が開かれたほか、引き続き調査・研究が進められている。

(6) 大学の一般教育と入試

大学の入学者選抜は、その大学の教育課程と密接に結びついているので、共通1次試験及び第2次試験の成績と、その大学における成績との関連を調査して絶えず入試の改善に努める必要があるが、例えば共通1次試験の社会の成績と、一般教育における社会の選択科目の関連について調査を行う（神戸大学）など、この問題については広く各大学で調査・研究が進められている。

さらに、共通1次試験、第2次試験成績と一般教育の関連から専門教育への進学状況の追跡と高校調査書の評定平均値との関連についても各大学で調査・研究が進められている。

(7) 高校教育との関連

共通1次試験はその目的が、大学入学者の選抜に当たって、高校の一般的・基礎的な学習達成度を共通尺度で評価することにあり、高校教育との有機的関連を絶えず考慮する必要があるが、このことに関連した調査・研究としては、大学の特性と、受験生がその大学への憧憬をもって志願できるような入試のあるべき姿についての研究（京都大学）や高校の進路指導と大学入試の関連についての研究（大学入試センター）、職業科の課程からの大学進学についての調査・研究（富山大学、長岡技術科学大学等）などがある。

(8) 大学生像の把握と大学教育

大学入学者の選抜は、単に大学への入り口としての入試としてだけで議論されるべきではなく、大学における教育との関連が重要であり、この意義から、現行大学入学者選抜制度による大学生像の変化に関するアンケート調査が実施され、国立大学への志願者、合格者、入学者の属性やその動向の基本と、現代大学生像についての長

所、短所及びその学生像の変化の原因等について分析が行われた（京都教育大学）。

なお、この調査・研究については、大学入試のあり方の改善と共に、現代の学生の心をしっかりとつかんだ大学教育の進展にも寄与することを目指したプロジェクト研究が、京都教育大学、大学入試センター、山口大学等により企画されている。